

2024年度 山形県山岳連盟 定時総会 議事録

日時 令和6年3月16日(土) 13時00分～15時30分

場所 大江町中央公民館「ぷくらす」 2F 多目的ルーム

1. 開会のことば 高橋副会長

2. 会長あいさつ

大滝会長から現執行部体制で4年目を迎えるが、県岳連が結成された理由を考えると、山が好きだというメンバーの安全登山や事故防止、登山道整備活動などが目的であったかと思う。地方団体の実情を提起し山形県問題として取り上げられ対応を考えていた矢先にJMCSAの赤字問題でそれどころでは無くなった感じもあるが、本来の目的を見失わず今年一年県岳連の成すべきことについて加盟団体の皆さんからご意見を頂き、執行部への叱咤激励をお願いしたいとの挨拶があった。

3. 会議成立状況報告

事務局から出席評議員 18名(実出席 9名・委任 9名)で定足数20名の半数以上の出席による会議成立報告があった。

4. 議長 事務局案として、長井山岳会 鈴木 俊一 氏 を推薦し承認された。

5. 議事録署名人の選出 事務局案として、大江山岳会 木村 誠 氏 を推薦し承認された。

<鈴木議長登壇 開会宣告>

6. 報告

報第1号 JMCSA2022年度赤字決算に係る経緯・経過について

菅野事務局長からJMCSA赤字決算状況及び検証委員会からの提言による「基金」及び「JMCSAフレンド」募集に関する説明報告があり質疑応答後 承認された。

報第2号 JMCSA状況と県岳連の方向性について

菅野事務局長からこれまでのZoom会議により検討してきた5項目について説明があり、質疑応答後 全会一致で承認された。

- 1) 山形県山岳連盟ではJMCSA基金の拠出はしない(できない)こと。
- 2) JMCSAフレンド登録については任意とすること。
- 3) 登山部門とスポーツライミング部門を分けた組織体制の明確化を図っていくこと。
- 4) 実情に沿った規約・規程の見直しを行うこと。
- 5) 2025年度に向けた役員体制を検討すること。

報第3号 加盟団体の退会について

菅野事務局長から規約により第2回常任理事会で加盟団体の退会が承認されたことの報告がありました承された。

退会届日 2024年(令和6年)3月15日

退会団体 山と雪の会

7. 議 事

議第 1 号 2023年度 事業報告について

菅野事務局長より登山部門について事業報告後、工藤副会長よりスポーツクライミング部門についての事業報告があり、その後一括して質疑応答後 全会一致で承認された。

議第 2 号 2023年度 収支決算報告及び監査報告について

高橋会計担当より登山部門についての会計報告後、工藤副会長よりスポーツクライミング部門についての会計報告があり、監査報告後一括して質疑応答後 全会一致で承認された。

議第 3 号 2024年度 第25回県民登山の実施(案)について

菅野事務局長より実施(案)が提示され、質疑応答後 全会一致で承認された。

実施日程 9月14日(土)～15日(日)

会 場 飯豊連峰 北股岳 2024m

主管団体 小国山岳会

議第 4 号 2024年度 規約・規程の改正(案)について

菅野事務局長より、今年度は「登山部門」と「スポーツクライミング部門」に分けた運営をしてきており、暫定期間として必要に応じた規約の見直しを行うことにしており、今後も不具合や不適と思われる箇所について必要に応じて対応していきたいとの考えについて理解求め主な改正点の説明があり、第2回常任理事会で総会への提案承認された事務処理規程に関して、スポーツクライミング部門についても準用することも含め説明があった。

質疑応答後 全会一致で承認された。

(主な改正点)

- 1) 規約に関しては、名称をクライミングからスポーツクライミングへ変更し、会計を「登山部門」と「スポーツクライミング部門」に分けた文言の追加修正。
- 2) 事業の管理・運営規程に関しては、これまで実績がなく役員旅費に関する条文の削除。
- 3) 事務処理規程に関しては、「登山部門」としての運用としたいこと、慶弔規定の取扱い項目を追加。
- 4) 指導員会規程に関しては、規程対象者から自然保護指導員を削除。
- 5) クライミング部規程に関しては、名称を「スポーツクライミング部」に変更。

議第 5 号 2024年度 基本方針(案)について

菅野事務局長から基本方針(案)を読み上げ説明後、井上理事長から、本来の基本方針とは言えないような内容であるが、執行部に就いてこの3年間はJMSCAに振り回されてきた、特にこの一年間の呆れ果てるような騒ぎとは関係なく、我々は登山やボルダリング等を楽しみたいという其々の思いが有り、この岳連に入っていて良かったと思えるように自分たちの事業を淡々とこなしていくしかないのだろうという意味合いを込めた基本方針であるとの補足説明があった。

質疑応答後 全会一致で承認された。

議第 6 号 2024 年度 事業計画 (案) について

菅野事務局長から JMSCA でも赤字対応が先行しており事業日程の情報も入って来ていない状況もあり、昨年の事業実績による記載であること、第 2 回常任理事会で確認された大会名称について「体育」から「スポーツ」への変更や日程等の補足説明と東北六県に関する会議対応は登山部門とスポーツクライミング部門双方での対応とすることも含めて「登山部門」と「スポーツクライミング部門」に関する事業計画 (案) の説明があった。

質疑応答後 全会一致で承認された。

議第 7 号 2024 年度 収支予算 (案) について

高橋会計担当から加盟団体の退会による収支変更が出てきたので、予備費等の補正により均衡を図りたいこと、支払についての口座振り込み対応や 5 月末までの会費納入についての説明があり、菅野事務局長からは現時点での県岳連構成状況を算定根拠としているが、総会前の団体も有るので会員数や評議員、指導員の変更が有る場合は随時連絡いただき、本総会では 2023 年度の実績に基づいた予算 (案) であることをご理解頂きたいとの補足説明があり、登山関係 (本会計) の予算案について説明後、工藤副会長からスポーツクライミング会計についての説明があった。

質疑応答では支出 (本会計) での繰出金について質問があり、JMSCA 関連の交付金や還付金を計上しているが状況によっては入らないことも考えられるので流動的な計上額であることの説明があった。

質疑応答後 全会一致で承認された。

議第 8 号 2024 年度 組織体制及び組織管理運営について

菅野事務局長から、2023 年度から暫定期間として「登山部門」と「スポーツクライミング部門」に分けた活動をしてきているが、監査員からもより分かり易い区分にすべきとの指摘もあり、運営方法や組織強化に向けての方向性について以下の 3 項目の取組みについて提案があった。

- 1) 実情に則した規約・規程の文言整理と見直しの継続
- 2) 事業について支出会計区分等の明確化
- 3) ネット通信やオンライン会議での情報共有の向上

質疑応答後 全会一致で承認された。

議第 9 号 2025 年度 役員 の選考委員会の設置について

菅野事務局長から 2021 年度の総会に於いて 6 年周期の事務局持ち回りについて、加盟団体の減少や会員の減少、高齢化といった問題などから県内一つの団体との考えで 2 年任期の役員改選とし、スポーツクライミング競技の実行が難しい状況や JMSCA 情勢への対応等で、2023 年度総会で再任をお願いしてきたが 2025 年度の役員改選に向けた事前の選考委員会の設置について提案があった。

井上理事長からは先の理事長会議で鹿児島県岳連から国体実施まで頑張ってきたが、終了後の役員改選で後継者が見つからないのでこのままだと解散するかもしれないとの発言があったことに触れ、今回の規約改正については「常任理事」から「役員」の選出に変えた選考委員会の設置について承認をいただいたので、常任理事会への提出案について検討していくことになるが、役

員のなり手が居ない場合は県岳連の解散もやむ負えないことであるとの補足説明があった。

質疑応答後 全会一致で承認された。

<議事は終了したが、鈴木氏に引き続き進行していただく>

8. その他

(1) 山岳・自然保護等関連報告について

「登山環境の持続化に向けて」磐梯朝日国立公園特別講演からの情報提供

井上理事長から3月7日に飯豊町で環境省主催の登山道に関する特別講演が開催され、講師の元山と溪谷社の編集長の久保田賢次氏からは「登山道が抱える諸問題」について、「ヤママップ」を開発した大土洋史氏には「保全を通じた関係人口の創出」や「保全活動に於ける財源の確保」等具体的なアドバイスを頂き、北杜市でトレイル研究をされている勝俣隆氏からは「登山道管理の為の民間団体の役割と活動事例」について講演いただき、行政だけが登山道を管理していくのではないとのスタンスから海外の事例なども交え貴重な講演をいただいた。山形県山岳連盟の加盟団体が管理している避難小屋や登山道等の維持管理に照らし、今後の活動の指標について展望が見えてきたように感じたこと。

又、寒河江山岳会から葉山での避難小屋新設に関する要望書について、常任理事会で検討したが、規模や設備、位置など具体的な内容や行政との協議経緯等がよく分からないとして保留とさせていただいたとの報告があった。

寒河江山岳会（工藤評議員）から、要望提出先の「葉山開発協議会」は寒河江市、村山市、大蔵村で組織されている会であり、安全登山に関連した整備内容に関する要望書の提出について打診があったとのことで、具体的内容までは未定の状況であり主旨へのご理解と協力をお願いして今回ご意見を頂いた内容を持ち帰り検討したいとの意向が示された。

井上理事長からはこれまでの事例を上げ、単なる要望書ではなく要望団体が葉山の自然保護や保全、安全登山に関する整備計画をつくって、施設の必要性や具体的な工法、その後のメンテナンスの方法等について協議しながら「提案」していく方法が良いのではないかと意見があった。

(2) 専門部及び委員会からの報告（情報）について

清野山岳文化担当から、柴崎芳太郎氏（明治9年、1876生・大石田町出身・剣岳の登頂に尽力・映画点の記のモデルとなった）、畠中善弥氏（鳥海山を広く紹介した）、安齋徹氏（明治22年、1889生・山形高等学校初代山岳部長・山岳雑誌に東北の山々を80数回紹介）、佐藤久一朗氏（明治34年、1901生・山形市出身・槍ヶ岳冬期登頂者・登山靴キャラバンの開発者）、遠藤二郎氏（長井市出身・スイスマッターホルン、アイガー冬期登頂者）、大島亮吉氏（槍ヶ岳登頂者・朝日連峰、葉山周辺を歩く）など、山形県に著名な人がいることを知って欲しい。山を登れなくなる時が来るので山との繋がりをもっていく方法としてこうした文献に興味を持っていただくことも考えられる。山岳文化学会会員は山形県からは4、5名なので、研究できる専門部署もあるので興味のある方は入って頂きたいとのことであった。

井上理事長から朝日山地森林生態系巡視員登録について山形県山岳連盟から出しているが、再登録及び、新規登録について3/27迄連絡頂きたい。要件として、巡視員はメールが使える方、実際に歩いていただける方、報告のできる方をお願いしたいとの依頼があった。

また、NPO 法人飯豊朝日を愛する会で「飯豊連峰登山道保全マニュアル」を作成したので、希望者に1000円＋郵送料で配布したい、加盟団体へ1冊贈呈させて頂きたいとのことであった。

(3) その他

出席された登山部専門部員（佐藤・池田・菅埜）3名と青山SC会計担当からの感想を頂いた。

総会初参加という方もおられ、団体の有り方も様々であり、高齢化や会員減少も問題であるが、知識や技術を習得し自己を高め安全に楽しく山と関わることが大切であること、地元の登山道整備活動などを通して新しい仲間や魅力をつくっていく力になればとのご意見、スポーツクライミングを通して子供たちに楽しい競技生活を送って欲しいことや県岳連との協力の在り方についても模索したいとのご意見を頂きました。

<鈴木議長から予定案件終了宣告>

9. 閉会のことば

工藤副会長

記念写真撮影終了後 15:30 解散した